

# ラカンを 読む

ジャック・ラカンが「読むべからざるもの」と位置づけた『エクリ』。だが、一冊に綴じられたこの論集を前にして、私たちはやはりそれを「読む」ことしかできない。

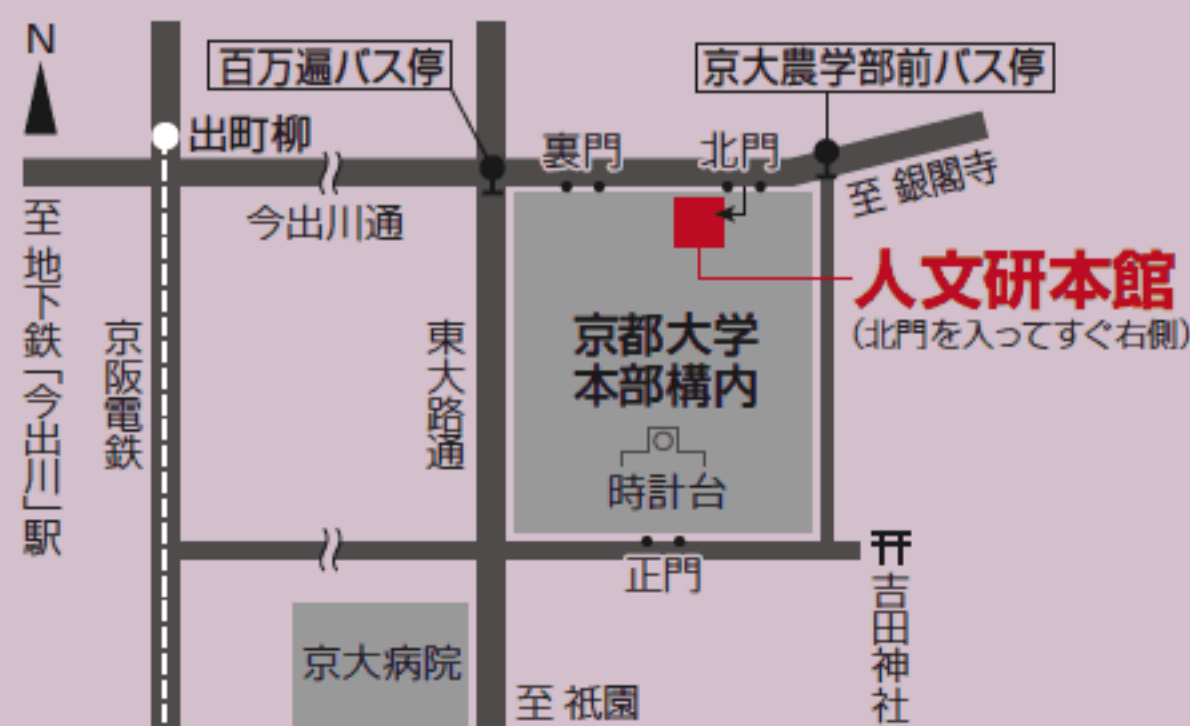
「読むべからざるもの」という定義は、じっさい、ひとつの挑発なのだ。「日本人に分かってもらうことを私は期待しない」というラカンのもうひとつの挑発にも尻込みすることなく、だから繙いてみよう、『エクリ』を。ラカンの言葉の起伏をなぞり、その感触をたしかめながら。

今期は、ラカンが構造主義に最も接近していた時代を代表する二つのテキストをとりあげる：

- Le séminaire sur «La lettre volée» (1956)
- L'instance de la lettre dans l'inconscient freudien ou la raison depuis Freud (1957)

**立木 康介** を

京都大学 人文科学研究所 准教授  
著書『精神分析と現実界』(人文書院、2007年)ほか



2009年

11月12、19、26日 / 12月3、10、17日(各木曜)

◎時間は各日とも18:00~20:00

**京都大学人文科学研究所**

**本館1F セミナー室2** (市バス「農学部前」下車徒歩1分、または「百万遍」下車徒歩5分)

主催 京都大学人文科学研究所

問合せ 京都大学人文科学研究所総務掛 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL 075-753-6902

メールアドレス z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp ホームページ <http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>